

異型上皮分布に基づく口腔粘膜病変の新規病態評価法

辺見 卓男

論文内容の要旨

本研究は、舌粘膜上皮の早期悪性病変 25 検体を対象として、異型上皮の分布局在に基づいて病態を評価・分類する方法を検討した。全摘切除検体の病理組織切片を用いて HE 染色とサイトケラチン (CK) 13、Ki67 の免疫染色を行い、デジタル記録した画像上で上皮組織を 500 μm 幅の解析区画に分けて所見を判定した。各検体の異型上皮の分布局在を比較解析し、以下の結果を得た。

- 1) 検体全域における上皮形質情報のデータベースを構築し、異型上皮の分布局在をマップ化して解析する手法を確立した。
- 2) 25 検体から得られた 5,258 解析区画のロジスティック回帰分析の結果、上皮組織の形態変化を判定するマーカーとして、CK13 と Ki67 の組合せが有用であった。
- 3) HE 染色と免疫染色のマップ化所見によって、異なる症例間の病態の比較が可能となり、異型上皮の多様な分布様式が明らかとなった。

以上より、早期悪性病変では、上皮組織の表現形質情報を統合したうえで、分布所見に基づいて病態を評価・分類することが有用であると考えられた。

論文審査の要旨

本研究は、舌粘膜病変の全摘切除検体を対象として、異型上皮の分布局在を可視化する手法について詳細に検討したものである。その結果、HE 染色と免疫染色による早期悪性病変の病態解析では、上皮細胞の形質変化の有無だけでなく、粘膜平面での異型上皮の分布を考慮することが重要であることを明らかにしている。

以上は、口腔粘膜病変の病態診断の精度向上に貢献するものであり、歯学に寄与するところが大きく、博士 (歯学) の学位に値するものと審査する。

主査 中原 貴
副査 又賀 泉
副査 代居 敬

最終試験の結果の要旨

辺見卓男に対する最終試験は、主査 中原 貴 教授、副査 又賀 泉 教授、副査 代居 敬 教授によって主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。